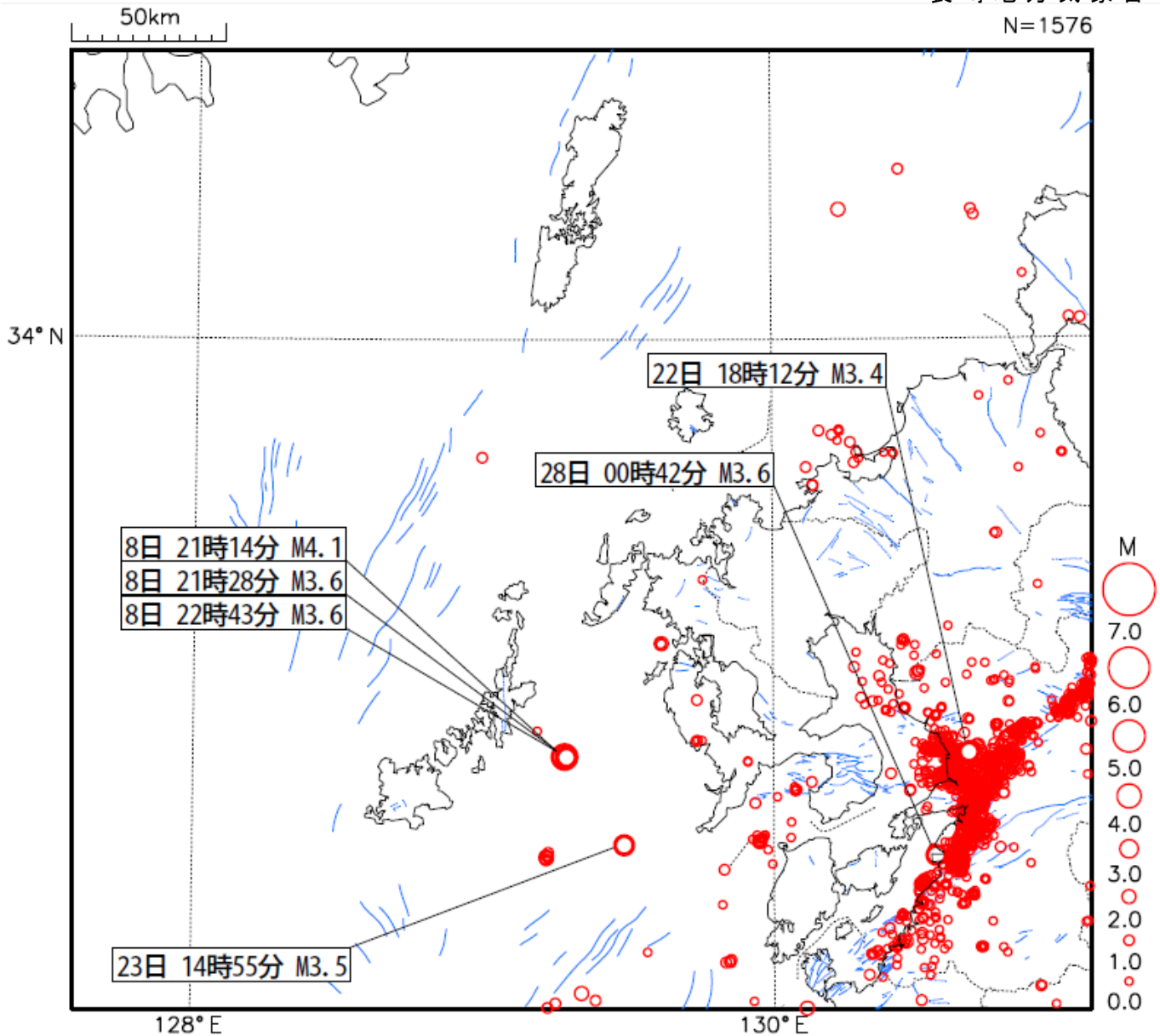


長崎県の地震活動概況 (2017年2月)

平成 29年 3月 10日

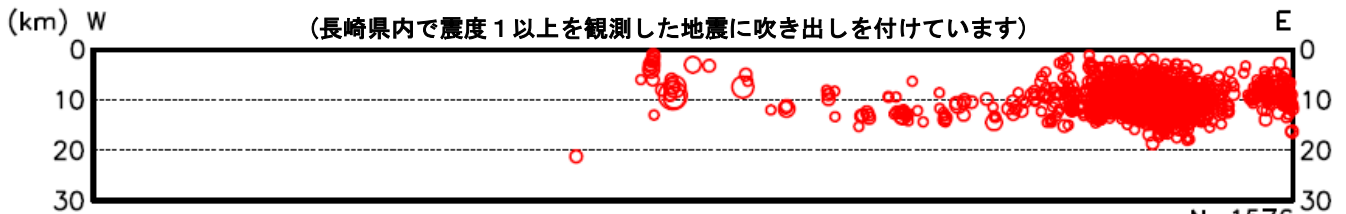
長崎地方気象台

N=1576



震央分布図 (2017年2月1日~28日、深さ30km以浅)

(長崎県内で震度1以上を観測した地震に吹き出しを付けています)



断面図 (2017年2月1日~28日、深さ30km以浅)

(震央分布図を南の方から見た断面図です)

- ※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による)。
- ※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震緊急観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成している。
- ※ 2016年4月から震源決定手法を変更したことに伴い、震央分布図等の見え方が従前のものと比較して異なることがあります。

地震活動の概況 (2017年2月)

長崎県の震度観測点で震度1以上を観測した地震は6回発生しました(1月:4回)。震央地名は、五島列島近海、熊本県熊本地方、天草灘でした。詳細は以下のとおりです。

五島列島近海

8日21時14分に発生した五島列島近海のM4.1の地震(深さ9km)により、長崎県、佐賀県で震度3~1を観測しました。長崎県では新上五島町で震度3、五島市で震度2、佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町および長崎市で震度1を観測しました(図1)。またほぼ同じ場所で、8日21時28分にM3.6の地震(深さ10km)が発生し、長崎県の松浦市、新上五島町で震度1を観測しました(図2)。8日22時43分にはM3.6の地震(深さ7km)が発生し、長崎県の松浦市で震度1を観測しました(図3)。今回の地震の震源付近(図4領域a)で震度1以上を観測したのは2009年11月11日に発生したM2.9の地震(最大震度1)で、長崎県五島市で震度1を観測して以来です(図4~図5)。

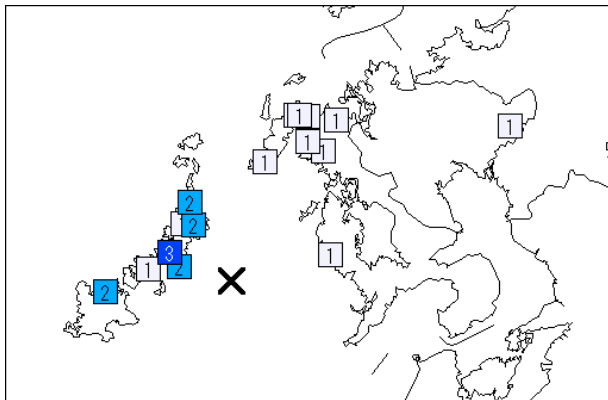


図1 震度分布図 (観測点別×:震央)

2月8日21時14分 M4.1

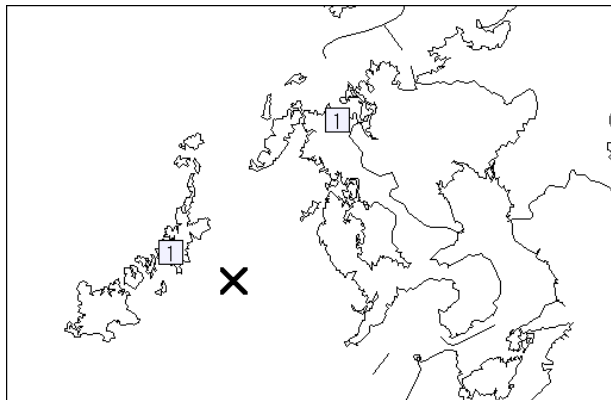


図2 震度分布図 (観測点別×:震央)

2月8日21時28分 M3.6

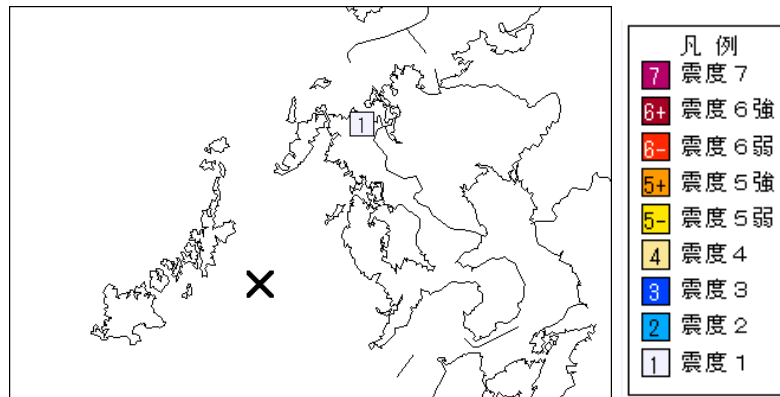


図3 震度分布図 (観測点別×:震央)

2月8日22時43分 M3.6

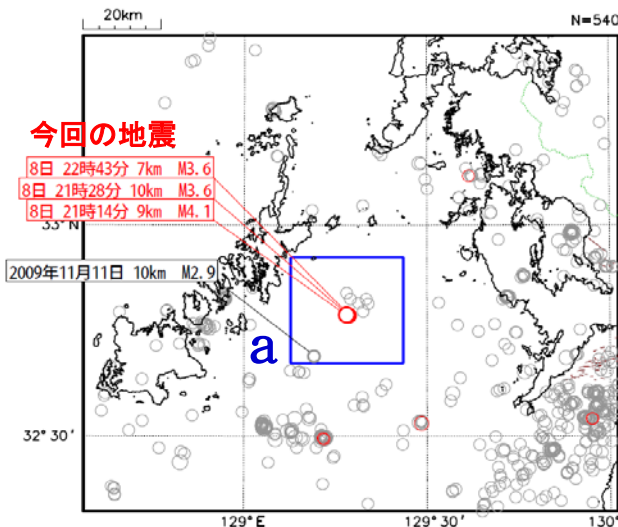


図4 震央分布図 (M2.0以上、深さ50km以下)
(2000年10月1日~2017年2月28日)
赤色は2017年2月分)

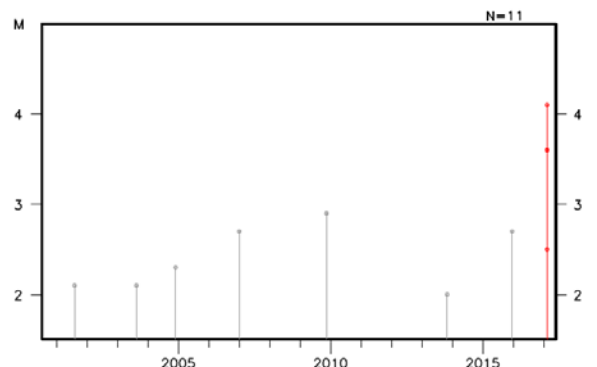


図5 図4領域内a内の地震活動経過図

表1 これらの地震により長崎県内で震度1以上を観測した地震

| | | | | | |
|-------|-------------------|---|--------------------------|------|------|
| No. 1 | 2017年02月08日21時14分 | 五島列島近海 | 32° 47.2' N 129° 16.8' E | 9km | M4.1 |
| 長崎県 | 3 | 新上五島町若松* | | | |
| | 2 | 五島市岐宿町*, 新上五島町立串*, 新上五島町有川*, 新上五島町奈良尾* | | | |
| | 1 | 佐世保市鹿町町*, 平戸市岩の上町, 平戸市鏡川町*, 平戸市志々伎町* 平戸市田平町*, 松浦市志佐町*, 佐々町本田原*, 長崎市神浦江川町* 五島市奈留町*, 新上五島町青方* | | | |
| No. 2 | 2017年02月08日21時28分 | 五島列島近海 | 32° 47.1' N 129° 17.0' E | 10km | M3.6 |
| 長崎県 | 1 | 松浦市志佐町*, 新上五島町若松* | | | |
| No. 3 | 2017年02月08日22時43分 | 五島列島近海 | 32° 47.1' N 129° 17.1' E | 7km | M3.6 |
| 長崎県 | 1 | 松浦市志佐町* | | | |

注1) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注2) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

天草灘

23日14時55分に発生した天草灘のM3.5の地震(深さ7km)により、長崎県諫早市、時津町で震度1を観測しました(図6)。今回の地震の震源付近(図7領域a)で発生した地震により、長崎県で震度1以上を観測したのは2002年7月29日に地方公共団体の震度データを活用開始以降は初めてです(図7~図8)。

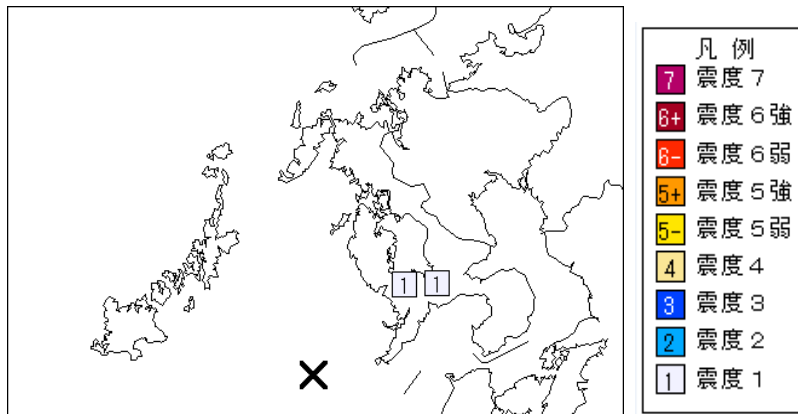


図6 震度分布図 (観測点別×:震央)

2月23日14時55分 M3.5

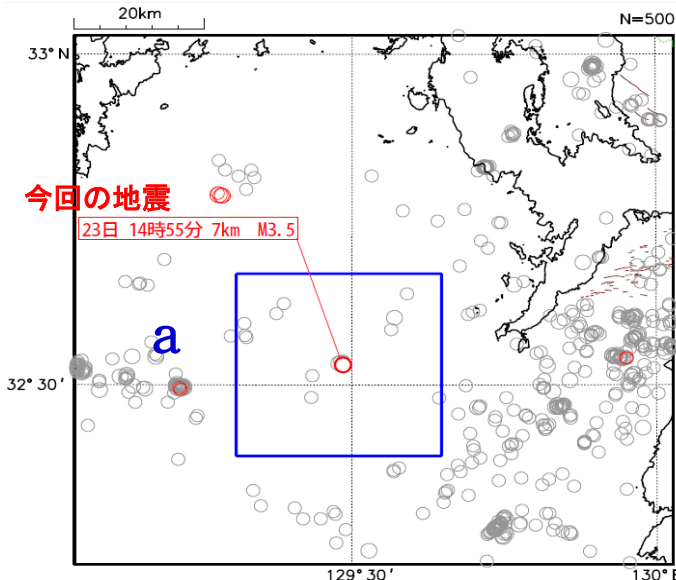


図7 震央分布図(M2.0以上、深さ50km以浅)
(2000年10月1日~2017年2月28日
赤色は2017年2月分)

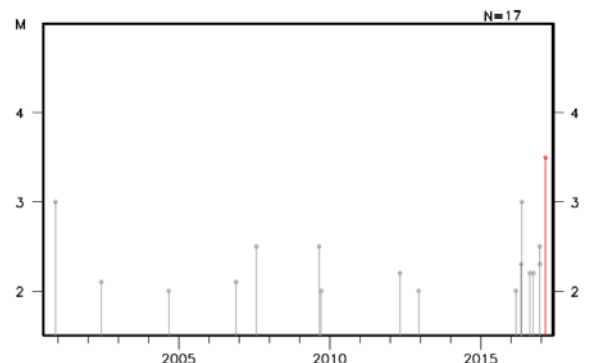


図8 図7領域内a内の地震活動経過図

表2 この地震により長崎県内で震度1以上を観測した地震の表

| | | | | | |
|-------|-----------------------|-----------------|--------------------------|-----|------|
| No. 4 | 2017年02月23日14時55分 天草灘 | | 32° 31.8' N 129° 29.1' E | 7km | M3.5 |
| 長崎県 | 1 | 諫早市多良見町*, 時津町浦* | | | |

注3) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注4) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

平成28年(2016年)熊本地震

22日18時12分に発生したM3.4の地震(深さ10km)により、熊本県、大分県、長崎県で震度3~1を観測しました。長崎県では島原市、雲仙市、南島原市で震度1を観測しました(図9)。

28日00時42分に発生したM3.6の地震(深さ11km)により、熊本県、鹿児島県、長崎県で震度2~1を観測しました。長崎県では雲仙市で震度2、南島原市で震度1を観測しました(図10)。

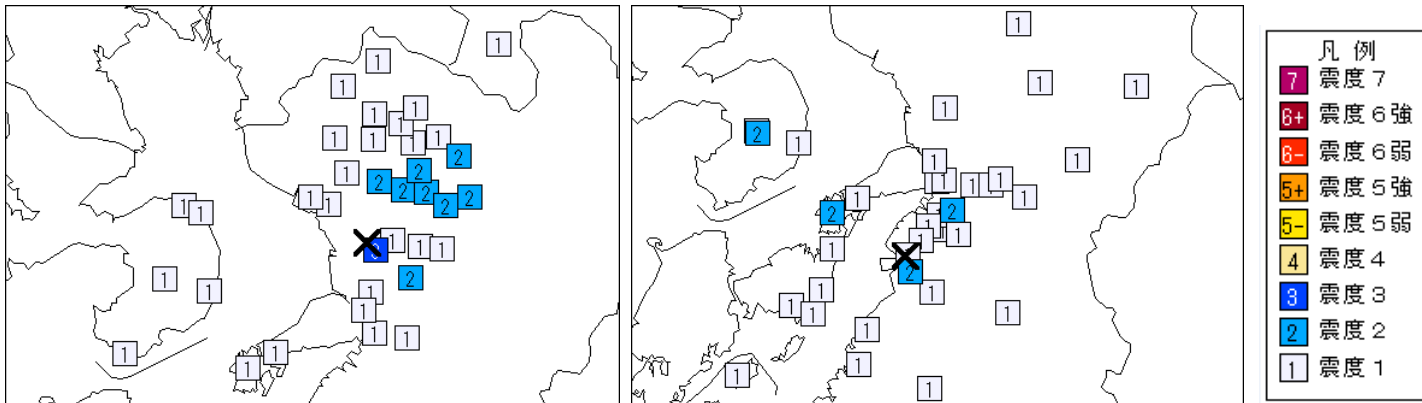


図9 震度分布図 (観測点別×:震央)

2月22日18時12分 M3.4

図10 震度分布図 (観測点別×:震央)

2月28日00時42分 M3.6

表3 これらの地震により長崎県内で震度1以上を観測した地震

| | | | | | |
|-------|---------------------------|--|--------------------------|------|------|
| No. 5 | 2017年02月22日18時12分 熊本県熊本地方 | | 32° 47.7' N 130° 40.3' E | 10km | M3.4 |
| 長崎県 | 1 | 島原市有明町*, 雲仙市国見町, 雲仙市小浜町雲仙, 南島原市口之津町*, 南島原市深江町* | | | |

| | | | | | |
|-------|---------------------------|---------------------|--------------------------|------|------|
| No. 6 | 2017年02月28日00時42分 熊本県熊本地方 | | 32° 30.0' N 130° 36.0' E | 11km | M3.6 |
| 長崎県 | 2 | 雲仙市小浜町雲仙 | | | |
| | 1 | 雲仙市雲仙出張所*, 南島原市深江町* | | | |

注5) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注6) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

表4 「平成28年(2016年)熊本地震」において長崎県内で震度1以上を観測した地震
(2017年2月1日~28日まで)

| 番号 | 発震時 (月日) | 発震時 (時分) | 震源地名 | 深さ (km) | 規模 (M) | 最大 震度 | 長崎県 最大 震度 |
|----|-------------|-------------|---------|------------|-----------|----------|-----------------|
| 1 | 2月22日 | 18時12分 | 熊本県熊本地方 | 10 | 3.4 | 3 | 1 |
| 2 | 2月28日 | 00時42分 | 熊本県熊本地方 | 11 | 3.6 | 2 | 2 |

「活断層の地震に備える－陸域の浅い地震－」の発行について

昨年発生した「平成 28 年（2016 年）熊本地震」を踏まえて、「陸域の浅い地震」をよく理解して事前の備えを促進していただけるよう、文部科学省と気象庁が共同で普及啓発資料「活断層の地震に備える－陸域の浅い地震－」を作成しました。

「活断層の地震に備える」は、全国版と地方版（全国を 8 地域に分割）の 2 種類があり、陸域の浅い地震が起きる仕組みや主要活断層帯の評価、過去の主な被害などを説明し、地方版では更にその地域にある活断層や予想される強い揺れなど、地域の特徴を詳しく解説しています。

※ 地方版については関東地方を先行して発行し、その他の 7 地域（北海道、東北、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）については、順次ホームページに掲載予定です。



【パンフレットの概要】

<全国版>

- ・陸域の浅い地震と活断層
- ・過去の陸域の浅い地震と被害
- ・活断層による地震の長期的な発生予測（長期評価）と揺れの予測（強震動評価）
- ・陸域の浅い地震とその被害の特徴と備え など

<地方版>

（全国版に加えて）

- ・各地方の活断層の特徴や地盤、活断層の地震による揺れの予測
- ・各地方の主な過去の被害地震
- ・陸域の浅い地震についての Q & A など

本パンフレットは、気象庁と文部科学省（地震調査研究推進本部）のホームページからダウンロードすることができます。

- ・気象庁（刊行物・レポートのページ）

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/index.html>

- ・文部科学省（地震調査研究推進本部 各種パンフレットのページ）

<http://www.jishin.go.jp/resource/pamphret/>